

豊かで 住みよい 町づくり



議会だより

2014. 11. 1 発行

上勝

9月 定例会

- 2P 26年度補正予算
- 3P 26年度補正予算質疑
25年度決算
- 4P 監査質疑・決算質疑
- 6P 一般質問
7名が町政について質問
- 13P (株)バイオ調査中間報告(要約)
議会の動き
- 14P まちのようす

補正質疑

武市議員 農業振興費の事業内容は、

山田産業課長

南天、葉ワサビハウスが2月の大雪の被害のため13戸が撤去、再建の助成金である。

明本議員

道路維持費、街路灯をLEDにかえられないか。

花本町長

あんどんデザインでポワーツとした光のもので直下を照らすものでない。

渡部議員

公営住宅管理費修繕料は、

中原建設課長

傍示・平間・落合住宅計4世帯の木質床のウレタン塗装費用である。

武市議員

非常備消防費修繕料は、

横山総務課長

野尻・下野の防火水槽(町所有) 40mで50年経過で水が抜けている。

岩本議員

消防備品購入費は何か。

横山総務課長

家庭の防災無線機アナログ40台分の購入費。

鹿島議員

商工費、キャンプ場のオートキャンプ場は何台停められるのか。

山田産業課長

10台分だ。11号台風のあとの路面と電気施設の補修費である。

松下議員

中学校管理備品購入費のAEDは子供用か。

吉積教育委員会事務局長

平成17年のものを買って替える。スイッチの切り替えて大人子供両用である。

平成26年 9 月定例会

一般会計補正 4億9,298万8千円

総 額 33億2,917万1千円

9 月定例会（9 月 9 日～9 月 19 日）までの会期で

- 平成26年度一般会計補正予算（他 3 件）
- 上勝町福原宿泊体験施設の設置条例の制定
- 25年度会計決算を可決認定した。

経常収支比率

24年度 82.0%
25年度 81.2%

財政状況の弾力性と健全性を示す経常収支比率は80%以内が望ましいとされている。

9月補正予算

会計名		補正額	総 額
一般会計（補正第 2 号）		4億9,298万8千円	33億2,917万1千円
特別会計	国民健康保険（事業勘定）	7,816万9千円	3億4,816万9千円
	介護保険	25万8千円	3億6,321万2千円
	国民健康保険（福原診療所）	90万円	2,869万2千円

主な補正内容

- 財政調整基金積立金 1億7,200万円
- 特定地域再生事業 502万6千円
- 公共土木施設災害復旧費 1億7,193万5千円
- 林道管理費 439万3千円
- 耕地災害復旧費 5,165万3千円
- キャンプ場修繕費 152万9千円
- 被災農業者向け経営体育成支援事業 1,013万4千円

平成25年度決算

歳入総額 38億1,414万円 前年度比 ▲5,976万円

歳出総額 34億97万円 前年度比 ▲1億8,400万円

町債（借金）残高 24億2,540万円 前年度比 ▲8,955万円

基金（貯金）残高 41億7,275万円 前年度比 +1億9,820万円

歳入歳出決算額

		歳 入	歳 出	差 引
一 般 会 計		29億2,530万4千円	26億5,413万8千円	2億7,116万6千円
特 別 会 計	奨学資金	96万円	96万円	0円
	国民健康保険（事業勘定）	3億315万4千円	2億3,170万7千円	7,144万7千円
	介護保険	3億4,556万4千円	3億4,287万2千円	269万2千円
	国民健康保険（診療施設勘定）	1億1,266万6千円	8,034万1千円	3,232万5千円
	国民健康保険（福原診療施設勘定）	2,010万円	2,010万円	0円
	東地区簡易水道事業	4,071万9千円	628万2千円	3,443万7千円
	西地区簡易水道事業	1,312万4千円	1,312万4千円	0円
	いっきゅう地区簡易水道事業	1,119万8千円	1,119万8千円	0円
	後期高齢者医療	3,777万5千円	3,716万8千円	60万7千円
	高鉾財産区	87万7千円	38万4千円	49万3千円
	福原財産区	269万5千円	269万5千円	0円

（※歳入歳出決算額は決算書に基づくものです。）

監査質疑

武市議員 福原財産区基金について10年後には基金が枯渇とあるが。

美木監査委員

工事に関する支障木保障等の収入もなくなり、基金から繰り入れとなる。

議会事務局が財産区事務を兼務しているが、町長部局の方で検討してもらったらの監査委員としての見解である。

明本議員

かみかつバイオの損失が毎年増大している。このことについては。

美木監査委員

住民も関心をもっている、70人もの従業員がありながら3月末現金預金残高が52万円台と、給料を支払える状況にない。今のままでは毎年赤字になる。

決算質疑

明本議員 豊かな森づくり事業についての内容は。

桑原企画環境課長

民有林購入の予定であったが、地主から山林と農地、家を同時に買ってもらいたいとの事で、協議した結果、契約に至らなかった。

岩本議員

住民情報媒体遠隔地保管の委託について、民間委託とあるが。

桑原住民課長

戸籍管理のデータの保管については、災害が起きた場合に、上勝より遠い所で管理する事が望ましい。

渡部議員

老人福祉センターの使用人数に老人の人数が入っていないのは。

認定 41号

6対1 原案可決

平成25年度上勝町一般会計歳入歳出決算の認定

議案 53号

6対1 原案可決

上勝町福原宿泊体験施設の設置及び管理に関する条例の制定について

討論

原案反対 明本議員

指定管理料、使用料、無料は困る。計画がまずい。この条例をきつちりとさせること。2万円以下自由に決められるのはおかしい。移住体験者が数ヶ月過こせる事が必要。

賛成 渡部議員

条例があれば管理できる。管理者の裁量で、移住を求めて来た人かどうか状況を見て料金が決められる。

賛成 松下議員

町が改装したモデルケース、町営住宅・民泊にない改造を期待する。

賛成 武市議員

温泉、農家民泊でもない新しい取り組みである。

発議 5号

4対3 否決

「特定秘密の保護に関する法律」の廃止を求める意見書

発議者 渡部議員

国会議員でも秘密について審議できない。国家の秘密は必要だが、内容があいまい。

討論

原案反対 松下議員

廃止反対。国家にも個人にも秘密はある。隣国からの侵略をも自国で守れない。国家と国民を守る法律は必要。

原案賛成 明本議員

危機感を持つ、物が言えない国家言論弾圧につながる。人権侵害にもつながる。拡大方向にある。平和主義に危険なもの。廃止を求める。

原案賛成 鹿島議員

何が特定秘密になるのか分からない。過去軍国主義もあり。国民の知る権利の為。

古積教育委員会事務局長

以前は畳の間で、大正琴・踊り等に利用していたが、学童保育の子供達の遊び場としてフローリングにした。老人の方々は高鉾公民館へ移っていただいたためである。

明本議員

国民健康保険基金保有額がたくさんある。保険料を安くできないか。保有額がどれだけあれば引き下げできるか。

傍示税務課長

基金があることによって単年度に赤字があっても保険料を引き上げずにいられる。他町村では引き上げしているが、上勝は据え置きしている。

松下議員

集落再生について、25年度の事業が低調のようだが。

桑原企画環境課長

25年度に400万円予定していたが、28件 384万9千円であ

発議 6号

原案可決

軽度外傷性脳損傷に関する周知及び労災認定基準の改正を求める意見書

発議者 鹿島議員

要旨

交通事故や高所からの転落、転倒・スポーツ外傷等により頭部に衝撃を受け、脳内神経繊維が断裂する事により発生する病気で、意識障害・半身まひ・視野が狭くなる等の難病であり、世界保健機構に於いても定義付ができていないが、日本の医療において知られておらず、労災や自賠責保険の補償対象になりにくい場合が多く、国が適切な措置を講じよう強く要望する。

地方自治法第99条の規定により意見書を提出。

【提出先】

衆議院議長 参議院議長
内閣総理大臣 総務大臣
厚生労働大臣 文部科学大臣

った。今年度は600万円です。でに500万円相当の事業申請がある。

藤田議員

東簡水の繰り越し金の活用は。

中原建設課長

40年が経過し、老朽化している。改良改修に備える。

条例改正について

鹿島議員

宿泊体験ゲストハウス使用料2万円とある。又風呂等は。

桑原企画環境課長

指定管理者と相談し、温泉の宿泊料金も参考に決めていくことになる。風呂はシャワー程度の設備である。



ゲストハウス改造中（旧井岡邸）

発議 7号

2対5 否決

地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決のすべき事項に関する条例の制定

発議者 明本議員

当初予算を通過した5,000万円以上の出資、出捐※について再度議会の承認を得る条例である。

質疑

武市議員
可決後公布日はいつか。

説明

事務局長
可決を議長が町長に報告その後となる。

討論

原案反対 岩本議員

5,000万円を切れば了解の解釈につながる。

原案賛成 渡部議員

5,000万円は適当である。予防措置として今後必要。

原案反対 松下議員

理事者をあまりにもしぼる条例にすると変更は難しい。

原案反対 武市議員

今年度予算審議は十分されている。この発議についてはもっと審議を要する。

※出捐：金銭や品物を寄附すること。

請願 8号

2対5 不採択

消費増税の撤回を求める意見書提出を求める請願

紹介 明本議員

消費増税により消費が落ちこんでいる。好景気の実感が無い。更に増税される。生活が圧迫される。廃止を求める。税金は所得の多い者から集めるべきである。

質疑 松下議員

現在8%まで決まっている。世界に公約したもの。消費税前提に貿易・各交渉事も進んでいる。

答弁 明本議員

国際公約はない。廃止することによって個人消費を増すこと。年金も目減りしている。



明 本 恵 一 議員

明 本

住み良い福祉の街に

上勝バイオの再建計画書は

問 出資金2億6,000万円先にありきだ。再建計画書が無い。町長は上勝バイオの再建計画と赤字の責任を明らかにせよ。

答 花本町長 シミュレーションは社長以下幹部職員が中心に作成した。経営責任は、増資後、再建を図る事が行政に課せられた責任だ。

高校生などもっと支援を

問 高校卒まで医療費無料化すべきだ。

答 花本町長 中学生まで所得制限なしで実施している。遜色は無い。

問 テレビ受信料を非課税世帯に無料化すべき。抱き合わせ販売で、ネットしない世帯は9万3,000円だまし取られた事になる。

答 花本町長 無料化する。収入の半分が無くなりネット利用者の価格が上がる。

問 その分高齢者・弱者に負担させているのはおかしい。

ゴミ収集は町がすべきだ

問 ゴミ収集箱を各集落に設けて、町が収集すべきだ。廃掃法は、「国民は分別・排出」「市町村は収集・運搬・処分」と決めている。

答 花本町長 そのあと「なるべく自ら処分するなどして協力」となっている。

問 「なるべく」というだけ。押しつけは出来ない。上勝は生ゴミを住民自ら処理をしている。

答 花本町長 どの方向が良いか検討したい。

大雨災害など自然災害予防

問 土石流危険渓流・急傾斜地崩壊防止事業は進んでいるか。

答 中原建設課長 危険渓流1、危険渓流2がある。1が28力所、2が23力所ある。整備済みは1が檜原谷・落合谷・かきざこ谷の3渓流。2が蔭井谷の1渓流である。急傾斜地は、近年1戸程度で実施した。

問 地元の負担率が上がっている。もとの10%に戻せ。

答 花本町長 調査して検討する。

問 避難勧告、避難指示の判断と避難場所は。

答 横山総務課長 避難勧告は降り始めからの連続雨量が40ミリ超。時間雨量が40ミリ以上が数時間続くと見込まれるとき。

避難指示は浸水などが起こりうる可能性が高いとき。土砂災害発生の前兆があるとき。

避難場所は高鉾公民館、傍不定住センター・福原ふれあいセンター・コミュニティセンター・旭集落センターの5カ所だ。情報伝達方法は基本的に防災無線・放送または電話だ。

農家民宿、レストランの現状は

問 石本商店廃止など展望が見えない。

答 桑原企画環境課長 石本商店は、廃止後、物品の整理中。農家レストランは、かみかつ里山クラブで運営する人材を確保中。

民宿は4軒開業中。利用者は24年度168人、25年度は221人と増加している。

問 カミカツリスト、上勝百貨店など公費助成している。

答 桑原企画環境課長 経営的に非常に厳しい。新商品開発・環境教育など取り組んでいる。

問 タブレット利用の弁当配達事業は。

答 桑原企画環境課長 25年度は弁当数764個、65才以上の方の宅配・見回り訪問54人だった。あとタブレット60台の配布先を検討中だ。

地区座談会の成果は

岩本

積極的な意見は少ない

町長

問 町長就任時の公約である地区座談会の素直な感想と参加人数は。

答 花本町長 名総代の意見も聞き、名単位で実施した。直接町民の声が聞けて大変良かった。十分ではないが、答弁もできた。町からお願いも聞いてもらった。人数は男子が150名、女子が66名、195世帯の方に参加いただいた。

問 町政に活かしていきたい意見は。又、主な意見はどんな事か、第3セクターに対する意見は。

答 花本町長 上勝晩茶の生産者が高齢になっている。なくなる心配がある。住宅施設を若い人がいない地区に持つてきてほしい。役場内において1ヶ所で全部情報が得られる組織にしてはどうか。町外に出られた方が

教育行政

問 土曜日授業の再開の見解は。

答 立川教育長 土曜の休日はスポーツ少年団活動・習い事、中学校では対外試合・練習試合・発表会などが多い。教職員の負担も大きい。一部の市町では土曜授業が実施されているが、ほとんどが大規模校である。大規模校は授業時数の確保が困難であるが本町の小中学校は標準授業時数を十分クリアしており、土曜授業については検討する余地がある。

問 今後座談会は継続していくのか。

答 花本町長 非常にハードであるが、継続していく。方法については名総代その他の方の意見も聞き検討する。

問 教育振興計画アララギプランの具体的な進め方は。

答 立川教育長

計画に基づき重点的に取り組んでいる内容の例として、15年間を見通して一貫した教育の推進、保育園・小学校・中学校の生活学習・健康面の連携をとっている。望ましい生活習慣の確立に向け、学校だより・学年だより・健康だよりを発行し、個人懇談・三者面談により生活指導に取り組んでいる。家庭教育・分かる授業のため、小中学校合同の研修会を実施、生涯を通じて学び続ける環境の充実を今以上に推進していく。

問 現在の保育園児数と来年度の入園者数は。

答 桑原住民課長 36名である。来年度は全員が入園すれば0歳児が4名、1歳児が3名、2歳児が6名、3歳児が5名、4歳児が8名、5歳児が8名である。

問 近い将来、複式学級も考えられるが対策は。

答 立川教育長 今後も複式学級解消が不可欠である。

問 中学校団体競技のクラブ活動対策と勝浦中学校との統合は。

答 立川教育長

難しい現状である。部活動の目的は学校教育活動の一環として、スポーツ・文化に興味関心を持つ生徒がより高い水準の技能や記録に挑戦する中で、楽しさや喜びを味わい学校生活を豊かにする事であり、現在の部活動にも団体戦もあり、本来の目的は十分達成できると考えている。勝浦中学校との統合は考えていない。



岩 本 文 昭 議員



松下和照 議員

松下

町長

県道上那賀線崩壊修復と迂回ルートの開設は

町道としての整備は難しい 林道の開設は可能

問 台風・大雨等で県道上那賀線、市宇・八重地間で3ヶ所崩壊。修復計画は。

答 花本町長 市宇の路側崩壊については、道路改良工事の一貫として河川に關係するので、渇水期の11月災害査定の後実施、八重地の堰堤及びセンプルセコイヤ下口については、災害復旧工事となる。

問 八重地・市宇・檜原を結ぶ迂回ルート開設について最短で集落連絡、広域農道とも直結出来るが町長の考えは。

答 花本町長 町単独事業は財政的に難しい。現地点では林道以外は無

理。ルートとして八重地・市宇間22km、市宇・上菅蔵間は900m、市宇・檜原間は27kmでいずれも3km以内で結ぶことが出来るルート。林道開設も5%の負担金と地権者の同意が必要。又、期成同盟会等各種要件が整えば開設可能と考える。

人口減対策

問 町内移住の児童に対して他町村をリードする優遇策を考えていないか又、児童手当を加算する考えはないか伺う。

答 花本町長 受入れは歓迎するが、特別の優遇策は考えていない。教



復旧を待つ上那賀線

育政策を通じ努力したい。児童手当の加算も他町村と競合にならないか十分検討していく必要がある。

問 出生児の祝金の増額について伺う。

答 森副町長 現在支給している祝金は他町村の平均額に近いが、今後比較検討してまいりたい。

住宅建設と空屋の活用

問 町営住宅周辺には若者が集中、地方集落は空屋が目立つ。必要な方々に空屋を集中的に斡旋しては。

答 森副町長 現在2ヶ所の住宅用地の調査研究を進めている。諸条件が整えば住宅用地として購入建設したい。民間の空屋については、集落再生、プラン支援事業を通じて助成する。各名から4件の申請があり、内3件について助成事業で支援したい。

農業振興

問 平成26年度水稲の作況は。又、米の販売価格の低下は農業の壊滅的打撃につながるが。

答 山田産業課長 米値低下の転作戦略作物として、10アール5万円（フキ・エンドウ・葉ワサビ等）がある。作況については日照不足の上に、いもち病・ウンカの発生もあるが、台風大雨も被害を拡大した。価格低下は需要減にある。直払交付金等活用し農家もがんばってほしい。

屋外アート スタンプラリー の取組み

問 結果と問題は。

答 桑原企画環境課長 今回は16ヶ所に増し実施。台風も作用、目標400人に至らず、今後は集落体験等も加え考えてみたい。

第3セクターの経営

問 過疎債の投入、労使の考え方、給与支給について伺う。

答 花本町長 今回2億6,000万円を株投入により長・短期借入金でゼロになる。産業振興資金2,900万円も回収可となる。

答 山田産業課長 各部から随時周知出来て居り、労使間の隔たりはないのではないかと。給与については今年4月より恒常的に従業員の給与の一部遅配が起きている。

教育振興計画等

問 学力評価と「N・E」活字文化の考え方を伺う。

答 立川教育長 上勝オンラインワン教育少人数だからできる個別指導、規範意識の確立、道徳心を身につける指導を進める。新聞を使って活字文化の学習も上勝小・中学校に取り入れていきたい。

8月台風で全町避難 勧告、その対応は

武市

総務課長



台風で削られた県道

問 12・11号台風避難状況は。

答 横山総務課長 12号台風で3施設7世帯11人、11号で、7施設52世帯94人が避難、11号では朝食食に非常食配布。

答 横山総務課長

警報発令時点で本団は役場詰めで、各分団は自宅待機、11号台風で正木ダムが初のただし書き放流があり福川の一部地区に避難指示旭・生実分団で土のう積みや、排水対策出動を要請

答 横山総務課長

今回は町内全地区が避難勧告対象。通常の警報では、檜原・田野々堂平地区で地すべり監視。

問 交通の便がない高齢者宅への対応は。

答 横山総務課長 今回11号台風の際は各避難所に職員配置、避難要望があれば対応する体制を組んでいる。

問 初めての全町避難勧告、迷われた方もあったと思う。行動マニュアルがあればと思うが。

答 横山総務課長 それぞれのマニュアルというのには難しい。基本的には各個人で行動計画を決めておく必要があり、意識啓発を進めて行きたい。

河川護岸災害の 予防対策は

問 河川の河床浸食による護岸の崩壊が、事前に予想される箇所の対策要望があったと思う。予防対策を河川管理者に強く求めているが。

答 中原建設課長 維持修繕的な一部を除いてそのような予算は皆無に等しく、事業採択で該当するものはないと県の回答。

問 本町における住民の有病率状況と特異性は。

答 桑原住民課長 本町の世帯の25.2% 448人、国保世帯のみのデータであるが、心臓病が78.5%、高血圧症71.8%、筋肉骨格28.4%、精神26.8%、脂質異常症16.7%、癌9.4%。

死亡率で一位 悪性新生物、二位 脳血管疾患、三位 老衰、地域特性として一次産業人口割合が多く筋骨格関節炎、食習慣から高血圧、心臓病が多いと推測。

問 健康づくり教室等の開催状況は。

答 桑原住民課長 筋トレ体操を年間10回、延べ74人参加。市宇地区で毎月の定例会に保健師が開会前に運動教室を実施延べ68人の参加。他チベット体

町全体を網羅した 観光協会的組織の 検討状況は

現実的に進んでいない
／産業課長

問 昨年の6月議会で観光協会的組織の必要性について質問、温泉を拠点として組織化の検討、地域おこし協力隊が研究しているとのことだったが。

答 山田産業課長

町内の関係団体が連携を図り情報の一元化は重要と考えている。組織の設立については関係団体と十分に協議を重ねることが必要と考えているが、現実的には進んでいない。

問 商工会との連携を図り、他力本願でなく、行政としてすべきことをやっていただきたい。

答 山田産業課長 できるだけそういった形で努力してゆきたい。



武市 功 議員

問 消防団の対応は。

問 町内で特に災害が予想されるような特定地域はあるのか。



藤田 欣宏 議員

藤 田

町 長

町道にかぶさる樹木の対策について

それぞれの管理者が処理

問 台風11号の暴風雨により、雑木が折れ、電力線の3本の内2本が切れ、時々木の葉がくすぶる時があった。
又、大型トラック等が通ると邪魔をしている。対策は。

答 花本町長 道路周辺に生えている立木は、それぞれの管理者が処理をしなければならぬというのが基本。一番上に電線があり、電線にかかる分については、四国電力。その下にはNTTがありNTTにかかるのはNTT。その下に光ケーブルがあり、光ケーブル

については町がやっている。道路の車両通行の支障になるものについては、町へ連絡があれば対応していく。

問 平成元年に朝日農業賞をいただいた時代との農作業、農産物、農業収入の違いをどのように考えているのか。

答 山田産業課長
当時1990年から直近の2010年の統計を比較すると耕地面積では278ヘクタールから204ヘクタールで、74ヘクタールの減となり、農家数は12戸から369戸になり148戸の減、農業就業人口は814人が370人となり44人減少している。農業産出額では15億2,900万円が10億7,000万円に減少している。
現在、花木、キウイフルーツ、野菜、香酸かんきつ、彩、ハラン、ワケ

ネギの7部会となり生産形態にも変化もあり、人口の減少、高齢化、後継者不足等が顕著な数字となっており、あらわれている。

エコツアー特区とは

問 8月24日の徳島新聞で掲載された「特区特区の乱立で全国で400」を超える。で上勝町のエコツアー特区も出ていた。どのような特区か。

答 桑原企画環境課長
前にも有償ボランティア特区があり、有償ボランティアアタクシーをシルバー人材センターが実施している。エコツアー特区については平成16年3月24日に認定され、10年ほど経ち町の活性化につなげるため、地域の産業の創出、規制緩和で農家民宿に消防法等の設備の簡素化でそれを契機に現在4戸で開業できた。

また市民農園では町が農協が申請していたが、檜原の棚田オーナー制度では個人申請により農業委員会に申請することができ、事務の効率が上がってきた。



町道にかぶさる樹木

杉地美杉線は不遇の道路

渡 部

整備の時期をずっと見ている

建設課長

問 県道上那賀戦線は1.5車線化等整備が進んでいる。同じく隣町への連絡道でありながら杉地線は白線さえも引いてもらえなかった。こちらは県道、こちらは町道、この差はなぜか。

答 中原建設課長
杉地線は下部から打ちかえる必要があるため、事業費もかかるので時期を見ていた。今後、現場の傷みの状況を見ながら対応してゆく。
県道になるには重要路線と認定されなければならないが、最終的には町の判断による。

杉地の不法投棄は仮置きかもしれない
問 杉地にゴミ袋が積んでいる。

答 桑原企画環境課長
所有者等に確認する必要がある。集落再生プランで、環境整備をする計画が出ていますので、対処してゆく。

バイオのトイレは早期に改修する
問 榊上勝バイオのトイレ改修は予算化されたまま止まっている。会社は続いている。

答 山田産業課長
トイレ改修の予算は25年度から繰り越しとなっている。経営改善計画のため、トイレの浄化槽の位置の変更の可能性があったからだ。
今後早期に取り組む。

町営バスの置いてきぼりは横瀬観光と提携をした
問 横瀬西へ徳バス最終便の到着が遅れた場合、町営の連絡バスは15分待つはずが、置いてきぼりにされた。委託バス会社はどう対処することになっているのか。

答 吉積教育委員会事務局長
従来は委託先のジャパン・リリーフが空いている車両・運転士を手配するようにしていた。9月より、ジャパン・リリーフが対応できない場合には横瀬観光が配車することにした。
バス停に連絡先の電話番号等が掲示されている。

問 どおりではなく、生きたものを盛り込んでほしい。親達としっかり協議してほしい。

答 桑原住民課長
条例の制定は12月の定例議会に提案するが、現状に即した基準を定めるのであり、今まで提案があった改善が実施できるというものではない。
新制度へ向けての条例制定のため、保護者、関係者一同と協議検討を重ねてゆく。

町営住宅は分散型に管理ができなくなる
問 町営住宅を建てるなら団地化せずに、集落の

答 花本町長 集合住宅なら発見しやすい。草刈りは人による。



渡部 厚子 議員

学童保育の条例を良いものに
現状に即した基準を定める
問 学童保育の条例が制定されるに当たって、型

もっと離れた方が住み良くないか
(喰田住宅)



鹿島 國男 議員

災害のときの避難は 鹿島

各消防分団に 総務課長

問 災害のときの避難誘導は。

答 横山総務課長 各消防分団にお願いするようにする。

問 避難の強制力は。

答 横山総務課長 避難勧告や避難指示は、町村長はできるが、最終的には個人の判断になる。

問 避難したときの食料は。

答 横山総務課長 各自で用意しておく。

I・Uターナー者対策は

問 I・Uターナー者の生活基盤の支援は。

答 桑原企画環境課長 空家改修は上限100万円で1／2(50才以下)、転入支度金は30万円(5年以上就学)、青年就農給付金(150万円×5年)、彩苗木の補助(3万円以上注文)、近代化資金スパーリ資金(農協)など。

ふるさと納税

問 今年度の寄附額は。

答 細束会計管理者 兼出納室長 平成26年4月1日から9月16日までの間に3件で10万円。

問 ふるさと納税のお礼は。

答 桑原企画環境課長 しあわせアリスを贈った。他に町内特産品もある。

残土処理は適正か

問 福川の残土処分場の積み方は適正か。

答 花本町長 処分場の県道側の法面は、1メートル上って15メートルの勾配であり、7メートル積んだら、犬走りを1.5メートルとって、また積み重ねて問題はないと考えている。

問 視察者の多い順は。また何を学びに来ているのか。

答 桑原企画環境課長 第1に彩で、彩をするということではなく、地域資源の活用方法を学ぶに。第2にゼロ・ウェイストで、各市町村の新たなゴミ処理の模索を。第3にバイオマスで、森林資源の有効な活用方法を。第4に役場で、地域住民の町づくりについてなど。

特定地域再生事業とは

問 サステイナブルアカデミーの進捗状況は。

答 桑原企画環境課長 内閣府の特定地域再生事業の補助事業を採択されたので、11月よりゼロ・ウェイストブランドを活用し循環型のまちづくり構想事業を進めたい。

問 具体的な内容は。

答 桑原企画環境課長 町民の皆さんが10年間取り組んで来たゼロ・ウェイストの知識を生かして、町民に講師をしてもらって、東京の方で環境に興味のある人達に上勝に来て勉強してもらうことによって、経済的な波及効果を期待したい。



福川残土処分場

第3セクター調査研究特別委員会報告書 (第1回)

1. 品質

平成9年に奇形椎茸が発生して以来、技術、原材料調達問題が未解決のままである。粗悪なホダのクレーム、補償問題も発生。森菌を力ネボウ方式でホダ製造しているのも問題である。

2. ハウス栽培

栽培農家は廃業続き、1ターナー者1戸が残るのみ。もともと栽培部門は不採算部門であり、ホダ木製造に専念する予定であった。集中発生等で冷蔵による品質低下、廃棄の椎茸が出ている。半自動パック装置の稼働率は50%程度である。増産イコール増収益の考えに固執し、機械化、増員を進めている。

3. 「いちごと虹計画」

3億から11億円を要する設備投資となっており、シミュレーションは希望観測のデータばかりである。

4. H-1(ハルカ・インターナショナル有機農法)方式

26年度の栽培試験で156万円の赤字となりながら、2年度目を開始している。有機認証を取るにはコストが跳ね上がり、黒字を出すのは難しい。

5. 経営陣

社長は辞意を表明したが、後任者がなく、続投となっている。

6. 従業員

新入社員の給料が経験者より高く逆転している。給与カットされている従業員の嘆願書は反古にされている。

汲み出し式トイレは改修予算があるが、実施されていない。

7. 経営者の無責任体質

平成12年の経営危機には経営陣の報酬一部返還、町長給与カット等行なわれ、「今後、町に財政支援は求めない」との確約書が提出された。今回も責任を明らかにする義務を怠ってはならない。2億6,000万円の出資金が新たな累積赤字の出発点となる懸念がある。

(要約)

議会の動き

7月

- 4日 議会総務常任委員会学校等訪問
- 8日 議会広報調査特別委員会(議会だより編集) 第3セクター調査研究特別委員会
- 13日 第29回徳島県消防操法大会応援(北島町)
- 15日 議会広報調査特別委員会(議会だより編集)
- 22日 議会広報調査特別委員会(議会だより編集) 第3セクター調査研究特別委員会
- 24日 議会広報調査特別委員会(議会だより編集)
- 31日 徳島県町村議会女性議員連盟設立総会(徳島市)

8月

- 1日 徳島県町村議会議長会定例会(徳島市)
- 4日 第3セクター調査研究特別委員会
- 26日 町村議会広報紙作成講座(徳島市)

9月

- 3日 議会運営委員会
- 5日 第3セクター調査研究特別委員会
- 9日 第3回定例議会 第1日(開会)
- 10日 議会全員協議会(決算)
- 11日 議会全員協議会(議案等) 第3セクター調査研究特別委員会
- 18日 第3回定例議会 第2日
- 19日 第3回定例議会 第3日(閉会)

まちのようす



ノルディックウォーク（榎原一市宇）



はで干しの棚田



福川秋祭



ポーズ決まった運動会



敬老式典の舞踊



敬老式典

実りの秋である。
天候不順のせいかお米も大豊作の声はきこえない。補助金も充実し、防獣害ネットが各所で張られ、狢師さんの頑張りもありフナ狢も普及。鹿・猪の被害は少なくなったが、猿だけはとうにもならない。お隣さんの栗の実も全部やられた。どうか狢師様この悪ガキ共にお灸をすえてやって下さい。
（岩本）

編集後記



ライトアップのボランティア達（八重地）